
風姫のナイト

黒椿

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

風姫のナイト

【Nコード】

N3485H

【作者名】

黒椿

【あらすじ】

シカテマセツナイモノガタリカゼヒメノナイトレンサイデス。

第1話「月の明かり」

俺は何があっても、砂の使者様を守らなければいけないんだ。

今は案内役という理由で…

けどいつか、俺はテマリ自身を守る存在になりたい…

風姫のナイト第1話 「月の明かり」

俺は今日も砂からの使者、テマリを
木ノ葉の大門で待っている。

すると、しばらくしてテマリの姿が見えてきた。
いつまでこの案内役に就いていられるのだろう…
できればずっと、この先も就いていたい。

あいつに会いたいから…

そんなことを考えているとテマリの声がした。

「おい、シカマル、なにぼーっとしてるんだ？」

「あ、わりい。」

目の前に首を傾げたテマリの姿があった。

そして、二人並んで木ノ葉の街を見ながら火影邸へ行く。

いつも通りの会話を交わしながら。

「何時に迎えにすればいい？」

「んー…一時間後ぐらいに頼む」

「分かった」

そして、俺はテマリと分けられると街中をうろろしていた。
するといのとサクラに会った。

「シカマルー！！あんたこんな所で何してんのよ？」

「俺は今任務中だぜ…案内役のな。」

「案内役かぁ…テマリさんは？」

「よくテマリの案内役って分かったな……」

半分呆れ気味に俺は呟いた。

「テマリを迎えに行くまでにまだ時間があんだよ。だから暇つぶしだ。」

「ふうーん。」

「お前らこそ何やってんだよ？」

「あたしたちはあー今話題のお店に行く所なのー。シカマルも早く彼女つくってデートでも連れて行ってあげたらどうなのよ？」

「シカマルもって…お前らも彼氏いねえだろ」

「うるさいわねー。」

するとテマリとの待ちあわせ時間をすぎていることに気付いた。

「あーやべえ！！待ち合わせ時間過ぎちまった…。俺行く」

俺はとにかく走った。

あいつが居る所へ。

しかし、テマリの姿が…ない。

まさか、俺を探しに行ったのか…

いや、そんなわけがない。

もしかしたら自分で宿へ帰ったのかもしれない。

そうだとすると、あいつはそうとう怒っていることだろう。

それに、あいつの身に何かあるといけない。

おれはまた走りだした。

「！！ テマリ！！」

テマリを見つけた。

振り返ったあいつの顔は予想に反して、寂しげな顔だった。

「…シカマル…」

「わりい。いのと話していたら…」

おれはそこでハッとして口をとじた。
最低じゃないか…俺は……。
言い訳までしてしまうはなんて…。

「そう…か。あたしはもうここから一人でも帰れるから…もういいよ。」

何でそんな泣きそうな顔するんだよ…

「…その、ホントに悪かった。悪気は無かったんだ」

また言い訳をしてしまった…

「いいよ…気にしてないから…」

どっからどうみてもそうは見えないじゃないか。

「じゃあ、なんで一人で帰るとか言い出すんだよ。」

「いいだろ?…別に。」

そう言ってあいつは俺に背を向け歩き出した。
その背中にはホントに切なげで…

小さくて…
頼りなくて…

それなのに俺は黙ってただ立ち止まっていた。
これ以上あいつを傷つけないから。

帰り道…月の明かりが今日は一段と
明るかった。

月が俺を照らして…

余計に悲しくなってくる。

ああ、なんで月は…
こんなに切ないんだ…

- - - - -
- - - - -
- - - - -

シカマル視点、風姫のナイト第1話は完成です^^

ほんと意味不でごめんなさい。

今回はこの続きでテマリ視点の風姫のナイト第2話の予定です。

誤字修正しました(遅

死者って… (どんなミスだよ

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3485h/>

風姫のナイト

2010年10月8日22時05分発行